

平成27年4月24日

保護者の皆様

練馬区立石神井中学校
校長 田中 隆史

感染症予防について

陽春の候、皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、平素より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

さて、平成27年4月21日（火）に区内小学校において、細菌性赤痢を発症した児童が確認されたと練馬区教育委員会から情報提供がありました。当該校においては、練馬区保健所の指導の下、全児童および全教職員を対象に検便による健診を実施しています。また、区内では、インフルエンザや感染性胃腸炎なども報告されております。

つきましては、下記の内容にご注意くださいますようお願い申し上げます。

記

- （１）トイレの使用後、また、外出からの帰宅後、手洗い、うがいをしっかり行ってください。
- （２）発熱、腹痛、下痢などの感染症が疑われる症状が出た場合は、早めにかかりつけの医師や医療機関に受診してください。また、その際は、担任や養護教諭に報告するとともに、無理をして登校することは避けてください。
- （３）感染症の発症が確認された際は、医師の診断の下、登校可能と判断を受けてから登校するようにしてください。その際は、出席停止扱いとしますので、欠席にはなりません。
- （４）裏面の練馬区のホームページ掲載「細菌性赤痢とは」をよくお読みになって対応してください。

◎ 本日、離任式終了後、養護教諭より全生徒に指導しました。ご家庭での指導もよろしくお願いいたします。

細菌性赤痢とは

(1) 細菌性赤痢とは

細菌性赤痢は、赤痢菌の経口感染で起こる急性感染性大腸炎で、発熱・腹痛・下痢などが主症状です。

(2) 症状は

典型的な症状として、1～5日（多くは3日以内）の潜伏期間の後、1～2日の発熱とともに腹痛・下痢が始まり、下痢回数が増加し、典型例では血便を伴います。症状がない保菌者でも他人に感染します。

(3) 原因と感染経路

細菌性赤痢は、ヒトやサルに見られる赤痢菌の感染症です。他の動物では赤痢菌の感染はまずありません。赤痢菌は便と一緒に身体の外に出ると、食物や水などを経由し、口に入り感染します（経口感染）。発症に要する菌量は極めて少ないことから、ヒトからヒトへの直接感染の危険性もあります。

(4) 細菌性赤痢の治療

下痢に対して整腸剤を用いるなど対症療法が中心です。抗菌剤の使用に関しては、医師が病状に応じて判断します。

(5) 二次感染予防のポイント

【手洗いは二次感染予防の基本です】

便には、たくさんの細菌が含まれています。石鹸と流水でこまめに手を洗いましょう。特にトイレの後、調理・食事の前には石鹸と流水で十分に手を洗いましょう。

【トイレを清潔に】

便の飛沫が付きやすいところは、日頃からこまめに掃除し、消毒を必要に応じて行います。消毒する場合は汚れをあらかじめ落としてから、消毒液を含ませた布などで拭きます。噴霧で行う場合は、消毒液がすぐに乾燥しないように十分な量を噴霧し拭き取ります。

【消毒方法】

○エタノール 70%

- ・手指：手洗い後、脱脂綿やウェットティッシュなどに十分に薬液を含ませて拭き、自然乾燥させましょう（手洗いに注意）。
- ・便器、トイレ、ドアノブなど
脱脂綿やウェットティッシュなどに十分に薬液を含ませて拭き、自然乾燥させましょう。表面が十分ぬれる程度に薬液を噴霧し同様に拭き取りましょう。
- ・ゴム製品、合成樹脂などは変質するので長時間浸さないようにしましょう。

【下痢がある場合の処理】

衣類や寝具に付着した便は流水で洗い流し、汚れた衣類と寝具は熱水を用いて洗濯機で洗浄しましょう。作業終了後に、流し台、トイレ、そして洗濯機は薄めた塩素系漂白剤などの消毒液で拭き取りましょう。

【症状がある場合は】

発熱、腹痛、下痢などの症状が出た場合は、医療機関へ受診をしましょう。